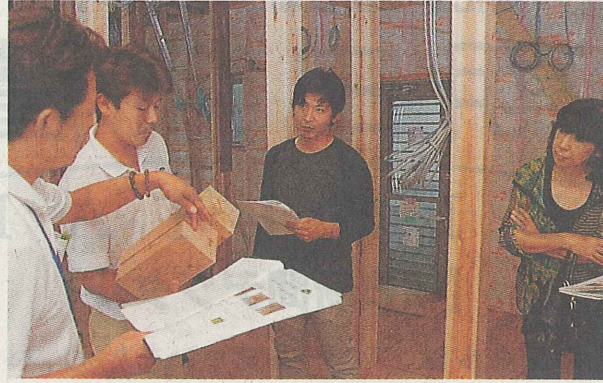


国産材の良さ知って

乾燥材強制と自然の違い学ぶ

国産材の良さを家を建てる消費者自身に知ってもらう「木のソムリエツアー」が7日、高岡市木津の住宅建築現場で開かれた。5人が参加し、現在主流の強制乾燥材・集成材と、湿度の調整や強度に優れた自然乾燥材の違いを主に学んだ。



自然乾燥と強制乾燥の木材の違いを学ぶ参加者＝高岡市木津

高岡・木のソムリエツアー

県木の住まい支援協会(射水市、笹川征一会長)が主催し、全4回の最終回。木造住宅の魅力を伝える「木のソムリエ」は、一般社団法人「住まい教育推進協会」が認定する専門資格で、今年は8都府県で同様のツアーが開かれた。県内では、婦負森林組合(富山市八尾町)などと連携して、6月から杉の林地と製材所の見学や座学を開いてきた。

この日は、木の香りが漂う来月完成予定の住宅で開催。富山、熊本、奈良各県などすべて国産の自然乾燥

材で建てられ、再利用可能な「循環型建築」になっている。一部にはけやきの古材が使われた。笹川さんは価格差についても、3千万円で新築すると、外国産材からの値上がりは60万円程

度と紹介した。

笹川さんらは、11月から「木の住まい教室」を開き、来年もツアーを開く予定。問い合わせは、同協会(0766・54・0462)。

(三島庸孝)